

智積院ちしやくゐん

〔養源院やうげんの東にあり、真言新儀派、開基正憲法印しやうけん。此地初めは豊太閣御子棄君菩提ほうたいかふ すてぎみほ だいの為に創建ありて、祥雲

禪寺と号す。厥后故障ありて妙心寺玉鳳院に移す、事は四巻妙心寺の部に見えたり。將軍家より覺鑿派断絶を惜み、初瀬に小池坊を創し、当院をこゝに建る〕

原当院は法住寺殿はふぢゆうじの古蹟、北は滑谷妙法院を限り、南は新態野瓦阪を限る。林泉は東に翠巒層々として深林の中に宝閣寂々たり。客殿書院俱に百花の図長谷川等伯はせ がわとうはくの筆、玄関松に鶴の画も同筆なり、みな惣金極彩色なり、艸木の絵の屏風一雙も極彩色にしてこれも等伯の筆なり、生涯の奇筆にして世に比類なし。